

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第3部門第5区分
【発行日】平成17年12月8日(2005.12.8)

【公表番号】特表2002-513449(P2002-513449A)
【公表日】平成14年5月8日(2002.5.8)
【出願番号】特願平10-550623
【国際特許分類第7版】

D 2 1 H 19/28
B 3 2 B 27/36
C 0 8 L 67/04
C 0 9 D 167/04

【F I】

D 2 1 H 19/28
B 3 2 B 27/36
C 0 8 L 67/04
C 0 9 D 167/04

【手続補正書】
【提出日】平成17年5月19日(2005.5.19)
【手続補正1】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】補正の内容のとおり
【補正方法】変更
【補正の内容】

手続補正書

平成17年 5月1日 

特許庁長官殿

1. 事件の表示

平成10年特許願第550623号

2. 補正をする者

氏名(名称) カーギル・インコーポレイテッド

3. 代理人

住所 〒540-0001
大阪府大阪市中央区城見1丁目3番7号 IMPビル
青山特許事務所
電話 06-6949-1261 FAX 06-6949-0361

氏名 弁理士 (6214) 青山 葆 

4. 補正により増加する請求項の数 15



5. 補正対象書類名 請求の範囲

6. 補正対象項目名 請求の範囲

7. 補正の内容
別紙の通り

方式審査 

(別紙)

請求の範囲

1. 約90～99.5%のS-乳酸残基の光学純度を有するポリラクチドポリマーを含んでなるポリラクチドポリマー組成物であって、約6より大きいMzのMnに対する比を有し、ASTM D1238-95に従い210℃および2.16kgで測定したときに、約2より大きいメルトフローインデックスに対して約1.25より大きいダイスエルを有する組成物。

2. 紙層とポリマー層とを含んでなるコート紙製品であって、該ポリマー層が、請求項1に記載のポリラクチドポリマー組成物を該紙層上に押出コーティングすることによって調製されたものであるコート紙製品。

3. ポリラクチドポリマー組成物が、過酸化物修飾されたポリラクチドポリマーを含んでなる請求項2に記載のコート紙製品。

4. 過酸化物修飾されたポリマーが、ポリラクチドポリマーとアルキル過酸化物を混合することによって調製されたものである請求項3に記載のコート紙製品。

5. 過酸化物修飾されたポリラクチドポリマーが、ポリラクチドポリマーと、組成物の全重量に基づいて約0.005～0.03重量%の過酸化物を混合することによって調製されたものである請求項3に記載のコート紙製品。

6. ポリラクチドポリマーが、エポキシ化された大豆油の残留物を含んでなる請求項5に記載のコート紙製品。

7. ポリラクチドポリマー組成物が、約7より大きいMzのMnに対する比を有する請求項2に記載のコート紙製品。

8. ポリラクチドポリマー組成物が、ASTM D1238-95に従い210℃および2.16kgで測定したときに、約2より大きいメルトフローインデックスに対して約1.4より大きいダイスエルを有する請求項2に記載のコート紙製品。

9. ポリラクチドポリマー組成物が、粘着性付与樹脂を含む請求項2に記

載のコート紙製品。

10. ポリラクチドポリマー組成物が、過酸化物修飾されていない請求項2に記載のコート紙製品。

11. ポリマー層が、約3.8～4.4ダイン/cmの表面エネルギーを示す表面を有する請求項2に記載のコート紙製品。

12. ポリマー層が、4.4ダイン/cmより大きい表面エネルギーを示す表面を有する請求項2に記載のコート紙製品。

13. ポリラクチドポリマーが、約92～98%のS-乳酸残基の光学純度を有する請求項2に記載のコート紙製品。

14. ポリラクチドポリマーが、約100,000～275,000の重量平均分子量を有する請求項2に記載のコート紙製品。

15. ポリラクチドポリマー組成物が、少なくとも約70重量%のポリラクチドポリマーを含んでなる請求項2に記載のコート紙製品。

16. ポリラクチドポリマー組成物が、ASTM D1238-95に従い210℃および2.16kgで測定したときに、約8～2.0のメルトフローインデックスを有する請求項2に記載のコート紙製品。

17. ポリラクチドポリマー組成物が、約95～96.5%のS-乳酸残基の光学純度を有するポリラクチドポリマーを含んでなる請求項2に記載のコート紙製品。

18. ポリラクチドポリマー組成物が、約0.5重量%未満の残留ラクチド濃度を有する請求項2に記載のコート紙製品。

19. ポリラクチドポリマー組成物が、安定剤を含んでなる請求項2に記載のコート紙製品。

20. ポリラクチドポリマー組成物が、脂肪酸エステル、アミド、金属塩および石鹸、パラフィン、炭化水素ワックス、およびこれらの混合物の群から選択される潤滑剤を含んでなる請求項2に記載のコート紙製品。

21. 紙層が第1表面および第2表面を有し、ポリマー層が紙層の第1表面に接着した第1ポリマー層であり、さらに紙層の第2表面に接着した第2

ポリマー層を含んでなる請求項2に記載のコート紙製品。

2.2. 紙層が第1表面および第2表面を有し、ポリマー層が紙層の第1表面に接着した第1ポリマー層であり、さらに第1ポリマー層に接着した第2ポリマー層を含んでなる請求項2に記載のコート紙製品。

2.3. 紙層が第1表面および第2表面を含み、ポリマー層が第1ポリマー層および第2ポリマー層を含み、第2ポリマー層が紙層の第1表面に接着し、第1ポリマー層が第2ポリマー層に接着している請求項2に記載のコート紙製品。

2.4. 第2ポリマー層がポリラクチドポリマーを含んでなる請求項2.1～2.3のいずれかに記載のコート紙製品。

2.5. 第2ポリマー層が、第1ポリマー層の重量平均分子量とは異なる重量平均分子量を有する請求項2.4に記載のコート紙製品。

2.6. 第2ポリマー層が、紙層と第1ポリマー層の間の接着をもたらすように選択される請求項2.3に記載のコート紙製品。

2.7. ASTM F119の試験方法に従い100℃で65時間の後に浸透のない油脂耐性をもたらす請求項2に記載のコート紙製品。

2.8. 第2ポリマー層が、分解された澱粉組成物、多価アルコールおよび誘導體、ヒドロキシプロピルセルロース誘導體、セルロースエステル、生分解性脂肪族ポリエステル、エーテル、ウレタン、および生分解性の脂肪族-芳香族ポリエステルからなる群から選択されるポリマーを含んでなる請求項2.1～2.3のいずれかに記載のコート紙製品。

2.9. 請求項2に記載のコート紙製品の製造方法であって、以下の工程を含む方法：

(a) 約10 J/gより大きい結晶度を有するペレットの形態で請求項1に記載のポリラクチドポリマー組成物を得る工程；

(b) 該ポリラクチドポリマー組成物を溶融して、溶融したポリラクチドポリマー組成物を得る工程；および

(c) 該溶融したポリラクチドポリマー組成物を紙層上に押出コーティング

グしてコート紙製品を得る工程。

3.0. コーティング層が非晶質ポリラクチドポリマー組成物を含んでなる請求項29に記載の方法。

3.1. 溶融したポリラクチドポリマー組成物が、約495～540°Fの温度で供される請求項29に記載の方法。

3.2. 押出コーティングを、約300～2,000フィート/分のライン速度でポリラクチドポリマー組成物を処理することによって供する請求項29に記載の方法。

3.3. 請求項2に記載のコート紙製品を含む製造物品。

3.4. 箱、コップ、皿、バター包み、マーガリン包み、ペットフード袋、ペットフード箱、ハンバーガー包み、複数壁の袋、芝生かすの袋、および肉屋の包みからなる群から選択される請求項33に記載の物品。